

## 5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

### 5-3-1 FDのための情報通信技術研究講習会

#### <事業計画>

私立大学における教員の教育技術力の向上を支援するため、「教員が教える授業」から「学生が能動的に学ぶ授業」を実現するためのアクティブ・ラーニングを中心に情報通信技術を用いた教材作成、授業デザイン、授業マネジメント、コンテンツの著作権に関する知識・技能の習得を目指した研究講習を実施する。

#### <事業の実施結果>

「FD情報技術講習会運営委員会」を継続設置して、「FDのための情報技術研究講習会」を開催した。以下に委員会及び講習会の活動を報告する。

#### FD情報技術講習会運営委員会

平成25年9月7日、10月15日、11月5日、26年1月31日、2月13日に平均8名が出席して、5回開催した。

#### (1) 開催計画の策定

ICT環境、教室設備、授業形態などが課題となっていて、アクティブ・ラーニングの実施に踏み切れない教員の方々に参加いただき、それぞれの環境下で実践可能な糸口を見つけていただくことを目指すことにした。プログラムとしては、アクティブ・ラーニングに取り組むための教員の姿勢やラーニングのイメージを共通理解するため、ICTを活用した授業の重要性と主体性を引き出す授業の実践事例、チームベースドラーニング、eポートフォリオの活用事例を紹介し、教員が希望する3つのコースに分かれて、事前・事後の学修を促進するための教材作成や学生参加型授業、学生が能動的に学ぶための授業方法などICTを活用した教育改善手法の修得を目的に、以下のように開催要項を策定した。

#### 平成25年度FDのための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：平成26年2月26日(水)～28日(金)
2. 会場：大阪経済大学(大阪府東淀川区)
3. 対象者：情報通信技術を活用した授業改善に関心ある私立大学・短期大学の教員(助教含む、職員は原則として対象外)

#### 4. 講習会の概要

文部科学省の「大学改革実行プラン」では、「主体的に学び・考え・行動する人材を育成する大学教育への転換」が求められ、アクティブ・ラーニングの重要性が指摘されています。ところで、それぞれの大学におけるICT環境・教室設備・授業形態などが問題となり、アクティブ・ラーニングの実施に踏み切れない教員が多数おられるのではないのでしょうか。ここでは、そのような課題を持つ教員の方々に参加いただき、それぞれの環境下で実践可能な糸口を見つけていただくことを目指しております。

そのため本研究講習会では、事前・事後の学修を促進するための教材作成や学生参加型授業、学生が能動的に学ぶための授業方法など、ICTを活用した教育改善手法の習得を目的に以下の3つのコースを設定します。

#### 【共通講義】

アクティブ・ラーニングに取り組むための教員の姿勢・教育手法について理解を共有した上で、「学生が能動的に学ぶ授業」を実現するための授業マネジメントや学修

支援の仕組みなどについて理解を深めます。

- ① 基調講演「主体性を育む授業とは（PBL授業の重要性）」  
安西祐一郎 氏（中央教育審議会会長、独立行政法人日本学術振興会理事長）
- ② 授業事例「eポートフォリオの導入と活用」  
星野聡孝 氏（大阪府立大学高等教育推進機構教授）
- ③ 授業事例「レスポンスアナライザーを用いたチーム基盤型学習（TBL）」  
大久保由美子 氏（東京女子医科大学医学教育）

### 【コースのプログラム】

#### （1）タブレットを意識した電子書籍型教材作成コース

##### <コース概要>

事前・事後の自己学修などを促進するために、タブレット端末での利用を想定した電子書籍型教材の作成技術を獲得し、各参加者が授業で使用する教材の一部を作成することを目指します。教材のイメージは、文字と静止画像だけでなく、無料のプレゼンテーションソフトで作成したプレゼンテーションに音声を付けた短い動画も扱い、オーサリングツールで電子書籍として完成させます。

##### <コース内容>

【1日目】到達度：学修を手助けするプレゼンテーション資料の作成技術を獲得する

講義：プレゼンテーション資料の作成技術と電子書籍型教材の紹介

実習：Preziを用いたプレゼンテーションの作成方法

【2日目】到達度：教材を電子書籍化する技術を獲得する

実習：音声入力とプレゼンテーション画面の録画、ファイル変換方法

実習：オーサリングツールを用いた電子書籍型教材の作成方法

実習：授業で用いる電子書籍型教材の作成

【3日目】到達度：各自の授業で用いる電子書籍型教材を完成させる

実習：ピアレビューとグループ討議

実習：電子書籍型教材の修正

発表：発表と相互評価

#### （2）LMS活用コース

##### <コース概要>

このコースでは、LMS（Learning Management System）を利用した事前・事後学修の展開、授業内での学生レスポンスの取得、双方向性を高めるタブレット利用など、学生参加型のアクティブ・ラーニングに求められる手法とLMSの活用技術の習得を目指します。

##### <コース内容>

【1日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニングのテクニックを知る

講義：学生参加型アクティブ・ラーニングの授業の実際

実習：自分の授業での学生参加型アクティブ・ラーニングをイメージさせる

【2日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニング実現に向けICT活用技術を獲得する

講義：LMSを活用した学生参加型授業の紹介と利用技術

実習：LMSの基本技術の習得と学生参加型授業への活用

講義：双方向性を高めるタブレット活用例の紹介

実習：タブレットの授業利用（学生レスポンスの取得、プレゼンテーションの利用）

【3日目】到達度：学生参加型アクティブ・ラーニングにICTを活用できるようにする

実習：ICTを活用した学生参加型授業をつくる

実習：ピアレビューとグループ討議

総括：全体討議とまとめ

#### （3）授業マネジメントコース

##### <コース概要>

アクティブ・ラーニングによる学修の進め方を参加者間で実際に体験していただき、ご自分の授業内で部分的あるいは少時間でも実践可能な手法を身に付けていただくことを目的としています。このコースでは専門分野ごとにグループをつくり、PBL（Problem/

Project Based Learning) と TBL (Team based learning) をベースに進行方法、教材提示方法、思考整理方法、知識充足方法などを意見交換する中で実践可能な授業形態を見いだすことを目指します。

<コース内容>

【1日目】到達度：アクティブ・ラーニングの授業方法を探求する

講義：アクティブ・ラーニングの実践事例の紹介（問題発見解決型学修・協働学修の形態）

実習：PBL、TBLの授業をどのように活用できるか構想する

【2日目】到達度：アクティブ・ラーニングに向けた授業の実践を考える

講義：アクティブ・ラーニングの実現に向けた課題（学生による学修支援の仕組み、学修到達度の自己評価、教員の役割など）

実習：課題を踏まえたアクティブ・ラーニングの設計

実習：アクティブ・ラーニングの設計を持ち寄り、他のグループと質疑応答

【3日目】到達度：設計したアクティブ・ラーニングの実践に取り組む

実習：前日の討議を踏まえてPBL、TBLの授業の実践シミュレーションを行う

発表：実践シミュレーションの発表とピアレビュー

## (2) 開催結果

平成26年2月26日～28日に開催し、49大学1短期大学から教員67名の参加があった。

- ① 共通講義では、「刺激的で興味ある内容であった」、「異なる分野での取り組みを知ることができた」、「仕掛けや組み立てが大変だが努力するしかない」、「発想の転換が求められている」等の感想が得られ、主体性を引き出し伸ばす視点の獲得が図れた。
- ② 電子書籍型教材作成コースでは、教材作成技術の獲得について「達成できた5%、見通しがたった95%」との成果があり、概ね教員自身で教材を作成する技術を身につけることができた。参加された教員の多くから「電子書籍を授業のテキストや自己学修教材として作成したい」、「新しい教材の可能性が広がった」、「教材を見直し、学生の反応を確認したい」などの感想が得られ、教材作成の視点が教員の目線からではなく、学生の興味を引き出し、よりわかりやすい内容にする改善が確認された。
- ③ LMS活用コースでは、LMSを用いた初歩的なアクティブ・ラーニングのイメージ作りとLMSの活用方法の理解について「達成できた8%、見通しがたった92%」との成果があった。参加された教員の多くから「LMS使い方が理解できた」、「アクティブ・ラーニングは難しく考えなくてもよいことがわかった」、「事前・事後学修にLMSを使いたい」などの感想が得られた。LMSの利活用に苦手意識と技術的な壁をもっていた教員の方々は、演習や意見交換を通じて理解が促進され、授業の一部分に取り入れて行うこととする改善意欲が確認された。
- ④ 授業マネジメントコースでは、ICTをとり入れたアクティブ・ラーニングによる学修の進め方については、「見通しがたった92%、達成できなかった8%」との結果であった。参加された教員から「新しいプランの参考になった」、「授業の質や教育力の向上につなげたい」、「実際にシラバスを検討することでアクティブ・ラーニングの手法を授業の中に位置づけることができた」、「設計した授業を実現したい」、「学内で共有化を図りたい」などの感想が得られた。なお、1名の方からは「具体的な事例をより多く聞きたかった」との意見があり、期待に添えなかったことから、来年度に向け参加される教員全員に達成感が得られるようコースの運営について改善を図ることにしている。